

初春のよき心を申し上げます。

おめでして突然の手紙お詫し下さい。  
本日は、昨年長尾和宏氏が出版さ  
れた。

長尾先生、「近藤誠理論」のところが  
間違っているようですが？

一  
に「ア」の思いを述べさせて頂きたく  
本に添付していましたハガキには用紙が

足らぬかと思ひ筆を取りました。  
私は七十三才主婦です。

今迄近藤誠Drの本は殆んど読み  
ました。

あれ程ハードな表現で、病院、Dr  
製薬会社等を叩かれたDrは後  
にも先にも表われたいよう。

ニ それに対して及論するDrは居ない

のかと思そいきましたら 長尾和宏Dr  
の本に出合いました

はらうり申し書いて近藤誠Drに  
共感する所が沢山ありそれなりに  
評価してあります

①でとう一度 長尾和宏Drの  
本を読み返して筆を止ま  
ます 何故ならDrに殺された

殺されながらたと言おう言訳は  
不要だと思ひます。

決めるのは誰か。、「看者本人」です  
近藤誠、長尾和宏、アトバ  
イスを自分がどう考へ、どう判

断するかは人それぞれ違う訳  
で、あな方のアトバの意見、アトバイス  
を受け止めの判断するべきであり

④

運の良し悪しも念め看者は  
他人に責任を押し付けろべきでは  
ない。

二年前、私の親友が脾臓ガンで  
患をこたうすした。検診で一年も  
経たずひす。癌は手術を  
すすめ開いて駄目だったらす  
ぐに閉じますよと言つて。その時

私と家族と一諸に、話を聞き出した  
初め、カクムツリケホムトクソリーに尋ね  
たところ、憐ガンは、発見された時、  
で、死んだ、無理の時が多いと。

やはり一件でも二件でも手術と  
言う、怪験を積みたのが、なみ、  
し、これと、親友の判断でし

六 たから、仕方がなつて、

看者優先が、キナリアノ傷夫が  
これに医療はありでけなく他  
死種に於いても、言えりつた。  
長々と書き並べました。  
最後に、読んで下さるなら  
ありかとういふことあります。

平成二十八年十月

長尾和宏先生へ

と